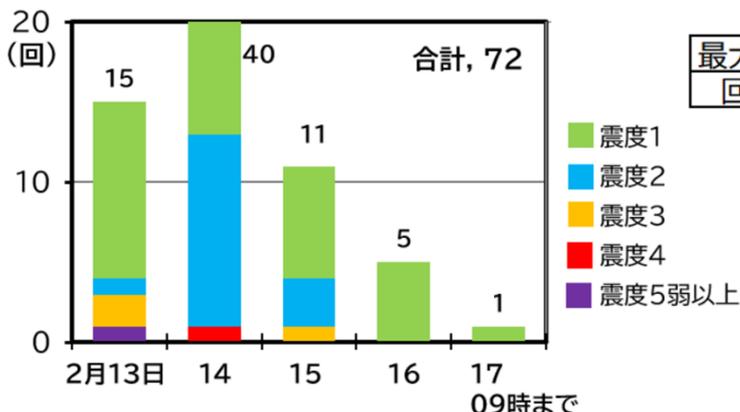


13日に発生した福島県沖の地震 — その後 —

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

余震の発生状況

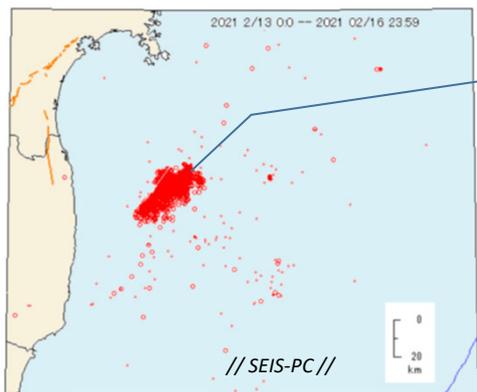
・震度1以上を観測した地震は、図1のとおりで、17日09時現在、総計72回。



最大震度	6強	4	3	2	1	合計
回数	1	1	3	16	51	72

図1: 日々の最大震度別地震発生回数

・震度1未満の地震も含めた発生状況は図2のとおり



2021/2/13 23:07  
M7.3 深さ55km

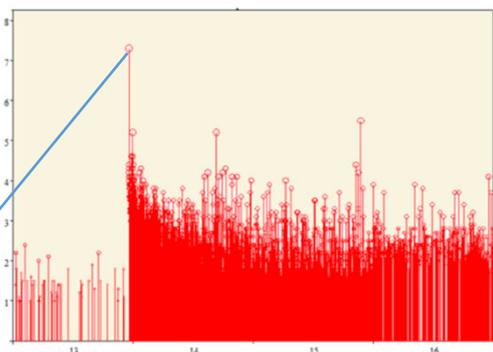


図2: 震度1未満の地震も含めた発生状況(2月13日~16日)

左: 震央分布図

右: 地震活動経過図

(縦赤棒が1つの地震を示す。横軸=時間、縦軸=M)

地震の卓越周期

- ・今回の地震の特徴の1つとして建物の被害がマグニチュードに比べて比較的小さいことがある。
- ・震度6強を観測した福島県相馬市周辺の建物被害を見ると、外見上は被害が少なく、かつ、被害を受けていても規模は小さい。
- ・しかし、建物内部では、家具などの転倒、商品の落下、事業所の設備機材の破損などの被害が目立つ。
- ・同じM7.3の兵庫県南部地震と比べて、家屋の被害はかなり少ない。
- ・この原因の一つとして、地震の周期が関係していると推測される
- ・今回の地震では、建物に大きな被害を引き起こす1~2秒の揺れ(キラーパルスとも呼ばれる)が小さく、工場の設備等に被害を与える0.5秒程度の周期の短い揺れが大きかった(図参照)。

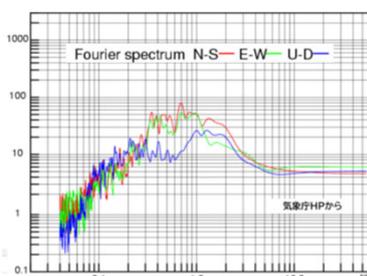
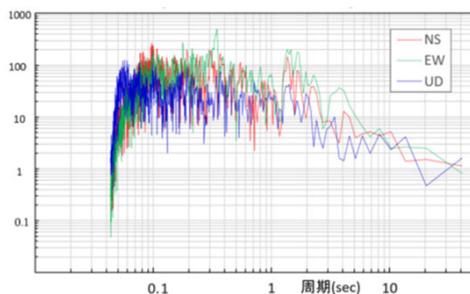


図2: 地震動の卓越周期(速報データ)

(左) 今回の地震(福島県南相馬市)  
0.3~0.5秒付近の短い周期が卓越  
(右) 平成7年 兵庫県南部地震  
(神戸市) 1秒付近が卓越